



## 思い出胸に旅立ち

市浦中学校（松山豊次校長）の昭和五十六年度卒業証書授与式が三月十六日午前十時から同校の講堂で行われ、「おめでとぅらっしつかりやれよ〱」と祝福された卒業生たちは、緊張した中にもほわと紅潮させ、巣立ち行く思い出多き中学校に別れを告げ、進学や就職の決意も新たに希望に胸を膨らませました。

（関連記事二面に）



先生や父母に見送られながら3年間の思い出を胸に校舎に別れを告げました。

### おもな内容

- がんばれ卒業生 2-3 ページ
- 健苗育成講習会  
自衛隊父兄協力会 4 ページ
- 村民冬期スポーツ大会 5 ページ
- 歴史漫歩 6 ページ
- おしらせ 7 ページ
- 社教シリーズ  
戸籍の窓 8 ページ

へと立ち向ってゆくにあたり、みなさんが青雲寮で得られたことが、少しでもプラスになることを願います。青雲寮で規律ある生活をしてきたみなさんには、苦しいこと、つらいこと、楽しいことなど様々な思い出があります。これから寮で過ごした三年間の集団生活は、これらの人生にとって、いつかはきつと役立つものと思われれます。周囲のことをよく考え、人には優しく、自己に厳しい人にならねえらいたいと思います。何ごとにも意欲をもち、がんばってほしいものです。

## 卒業おめでとう

一つの区切りをつけて巣立つ今、三年間の寮生活を終えて自分自身をどのように評価できたでしょうか。それぞれの道へ、そして実社会へと立ち向ってゆくにあたり、みなさんが青雲寮で得られたことが、少しでもプラスになることを願います。



市浦中青雲寮  
寮母 佐々木絹子



見守る先生方



卒業証書授与式



卒業生並列



拍手を送る在校生



送る言葉



言葉

## がんばれ 市浦中卒業生

八十四人の卒業生一人一人に卒業証書を授与した松山豊次校長は「初心を忘れず、本校の生徒として立派な足あとを残し、後輩の良き道案内者になってください。また、働きながら学ぶということも、容易なことではないので志を固くし、良き社会人、良き産業人となつてほしい。と激励し、「己に打ち勝つ強い心を持ち、正しいことを勇氣をもつてやりとげる人間になつてほしい。」と式辞を述べました。

このあと、依谷佐一教育長が「親への感謝の気持ちを忘れず、苦しい時や悲しい時には、美しくたくましく育つた市浦中での生活を思い出し、友だち同志で励ましあい、時には先生方を訪ね、アドバイスを受けることも大切かと思う」と教育委員会としての告辞を述べました。

続いて、米賣の白川治三郎村長は「二十世紀を展望してみると、日本の産業構造は、創意と工夫をいかに高度な産業開発が進められ、心のふれ、人間性というものが大切になってくるかと思われ。来るべき二十一世紀への対応と調和のできる人間になつてほしい。」と、また、三和芳次PTA会長は「人間社会では集団生活のルールを無視することはできない。自分の行動

に責任の持てる人間であり、物を大切にすること、他人への思いやりや、いたわりの気持ちを持ち、多くの人々から信頼される心の広い人間になつてほしい。」と激励しました。

このあと、相川美恵子さんが、楽しかった学校行事の思い出と協力しあうことの大切さ、最後までやり抜く根性を教えてくれたことの感謝の気持ちを述べ、「先輩の築いた伝統を守るため、ありったけのフアイトを燃やし、「一層勉強して前進させます。これまでの知識と技術を土台とし、日本に世界に貢献する人間になつてほしい。」と、在校生を代表して別れの言葉を述べました。

また、卒業生を代表して成田卓也君が「卒業証書にぎりりめたうれしさと、協同性や思いやりの大切さを教えてくれた先生方に感謝の言葉を述べたあと、「これから進む

道は自分たちが決めた道です。これから先の十年、二十年後を見てください。世の荒波を真正面に受けても目をそらすことなく、希望と誇りをもつた良き社会人となります。」と力強く決意を述べ、在校生には「私たちのいたらなかった点を改善し、良い校風をつくるようがんばってください。」と答辞。

続いて、松山校長、三和PTA会長から卒業生代表の笹山ひとみさん、三和新一君にそれぞれ記念品が授与され、卒業生代表の高橋ゆかりさんからは、卒業記念品として垂れ幕の目録を松山校長に手渡ししました。

式歌・校歌を唱へ、卒業生の中には、そつと目頭を押さえる風草もみられました。卒業生、父兄、学校職員、在校生の大きな拍手に送られ、胸をはって学び舎をあとにしました。



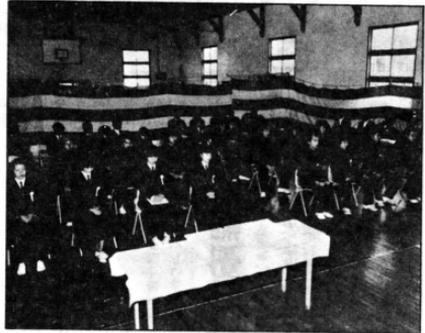
卒業証書を手にする卒業生



ゆが子を見守る父母

# 未来へはばたけ

## 8人が学び舎に別れ



「4年間学んだことは生きてゆくための活力をもたらすものと確信する」と岩川校長が式辞を述べました。(相内分校卒業証書授与式)

県立金木高等学校相内分校  
(岩川進校長)の昭和五十六  
年度卒業証書授与式が三月

五日同校体育館で行われま  
した。

式場には、学窓を築立つわ

が子の晴れ姿をひと目。と  
いう父母や多数の来賓が祝  
にかけつけました。

式では、卒業生八人に岩川  
校長から一人一人に卒業証書  
が手渡され、全国定通振興会  
会長賞や成績優良賞などの賞  
状も授与しました。

岩川校長はこの四周年学  
んだことは生きていくための  
活力をもたらすものと確信し  
ます。人間らしい人間とは、  
自分の「カラダ」にとじこも  
ることなく、他人の身になって  
考えてあげられる思いやりと  
正しいと思うことは自信をも  
つてやりとげる人間である。  
あなた任せの消極的な言葉に  
感傷されず、自分の行動に責  
任のもてる人間になってほし  
い」と式辞を述べ激励しまし  
た。

来賓の祝辞のあと、在校生  
十名を代表して、寺谷武彦君  
が先輩を送る言葉。これに対  
し、卒業生を代表して石戸谷  
明人君が答辞を述べました。  
母校へ記念品を贈呈した卒  
業生八人は、卒業証書を手  
に思い出多き校舎に別れを告げ  
ました。

県立金木高等学校相内分校  
は、昭和二十八年五月一日、  
青森県金木高等学校(組合立)  
相内分校(昼間二部制)として発  
足しましたが、年々受験者が  
減少し、昭和五十六年度の在  
校生は十名だけとなりました。  
卒業生たちは「伝統ある母  
校は、絶対なくしてはならない  
し、在校生の手でいつまでも  
この伝統を守り続けてほしい」と語りあっていました。



「在校生は10人となりましたがこれまで伝統を守り続けたい…」

### 「聞思修」



相内分校教頭 須藤 安一

仏教の言葉である「聞思修」を贈り卒業のお祝ひとしました。  
「聞」とは人の言葉を受けて意義を認識するとか、よく聞いて物事を処理するなどの意であります。人の意見を素直に聞きなさいということであります。

「思」とは、物事の条理、内容を分別するため心に心を働かせ判断する。即ち人の意見を聞いたなら、それを自分の頭でよく吟味し、判断し決心することという。人の話をもみにせず、善悪正邪を判断せよということでありませす。

「修」とは、正しいと思ったことを敢然と実行に移せよということでありませす。勇気と決断をもって実行せよということであり、教養の最終目的は、これを実行に移すことと教えているのです。  
健全な努力を期待しませす。

# 健苗育成と 水管理の徹底を

## 水稻講習会に九十五人 育苗講習会に九十五人

市浦村、市浦村農業協同組合・金木地区農業改良普及所共催の水稲育苗講習会が三月十日、基幹落センターに農

この講習会は、二年続きの凶作の反省に立ち、稲作の基本である「健苗育成」に心がけ、異常気象に対応できる米づくりと良質米の増収を目指す。開講したのですが、講師には、金木地区農業改良普及所の奈良洋一技師が当たり、受講者たちは、真剣に聞き入り、メモをとるなど、知識を高めるための専門的な質問を

奈良技師は、総合的なまとめでして、健苗育成は、稲作の基本であるにもかかわらず、苗づくりをおろそかにしたり、安易な考え方をしている人が多い。苗づくりは、人間の子どもを育てることにも通じるところがあり、過保護にしても、いじめ過ぎてもいけない。苗づくりには、自分の子どもを育てるような気持で取りくむことが必要である」と



米作りの基本は健苗育成から……。多数の関係者が集まって、真剣に勉強していました。

述べていました。

また、健苗育成の基本的な

こととして、

■土壌の酸度を測定する。

■苗の生育に適する土の酸度は

四・五から五・五の範囲で、

これよりも低くても高くても

苗は順調に育たない。

■水浸けは少し長めにする。

■種もみの水浸けの期間は二

週間必ずする。水の入れ替え

は三日から一日おきにやる。

■種まきの日は、田植えの日

から逆算する。

■中苗の苗代期間は、三十五

日から四十日。これより短か

いと中苗はつけないし、長

くなれば一日ごとに苗は悪く

なる。

■種の量少なめに蒔く

■ハウス育苗、畑トンネル育

苗では、わり床にしない。

■置床はあらかじめ地温を高

める工夫をする。

■温度調整はこまめにやる。

■ことなどをあげていますが、

実地指導等については、市浦

農協の営農指導員または、金

木地区農業改良普及員が相談

に応ずることとしています。

■ことこそは、異常気象に

対応できる米づくりと冷害に

打ち勝つ強い気持で進みたい

ものです。

## 自衛隊父兄協力会で総会

隊員の慰問  
体験入隊などを決める



会員三十九人が出席して開かれた父兄協力会の総会

市浦村自衛隊父兄協力会

(藤田礼造会長・会員四十九

人)の昭和五十六年度の総会

が去る三月四日、十三の「相

歌山ドライブイン」で会員三

十九人が出席して開かれまし

た。

総会では、昭和五十六年度

の事業報告や決算などを承認

したあと、五十七年度の事業

計画と予算案を審議し、満場

の拍手で承認された。

五十七年度の事業としては、

国道三十九号線工事施設隊員

の慰問(八月下旬には、三沢

基地及びブルーインパルス見

学、九月中旬の体験入隊など

を決める。

このあと、一ノ瀬朝三郎青

地連募集課長が地連の募集業

務並びに西北五地区の募集状

況を講話しました。

【自衛隊父兄協力会】は、

村出身の自衛隊員を激励しよ

うと、五十七年三月設立さ

れたもので、隊員の父兄や元

隊員であればだれでも入隊で

きるようになっていきます。

## 第11回村民冬期スポーツ大会

# 熱戦パパに大きな声援

## 快い汗で親睦深める

第十二回村民冬期スポーツ大会は三月七日日&G財団市浦海洋センターと市浦中学校体育館で開催され、総合的に優った十三チームが昨年度の覇者相内二チームを破り総合優勝に輝きました。

## 十三チームが総合優勝

この大会は、村民の親善

和と健康保持、スポーツの振興をはかろうと、毎年三月の第一日曜日に村内地区別班対抗で開催してきたものです。

また、この大会は、体育協会の年間事業の一つとして、バレーボール、バドミントン、卓球の三種目を中心に行ってきたのですが、夏期大会との総合制を取り入れることになったため、村が一本化しての開催となりました。

この日は、村内各班の選手百八十人が海洋センターに勢ぞろいし、午前八時四十分から開会式。白川治三郎大会長が「海洋センターを利用してのスポーツ活動が積極的に行われ、各種目ごとのパワーアップもなされている。今後も自分の健康は自分で守るといふ立場からも、スポーツに親しみ健康で明るい村づくりに努めてほしい。」と激励しまし

た。

このあと、山上裕行選手相内一チームが選手宣誓をして競技に入りました。

海洋センターでは、バドミントンと卓球競技が行われ、家族の応援にハッスルするパパとママ……。おやつを食べながら再探する子どもたち、バドミントンのラケットを初

めて持つというママさんらに大きな声援と拍手がわいていました。

また、バレーボール会場もなつた市浦中体育館にも、それぞれのチームから多数の応援者がかけつけ、連携プレーや、時間差攻撃に失敗する夫婦をやじったり、声援するなど、楽しいふんいきの中で

熱戦がくりひろげられていました。種目別競技の結果は次のとおりです。

■バドミントンの部 優勝 相内一チーム。準優勝 磯松チーム。第二位 相内四チーム。

■卓球の部 優勝 十三チーム。準優勝 相内四チーム。第三位 十三チーム。

■バレーボールの部 優勝 太田チーム。準優勝 十三チーム。第二位 相内一チーム。

■総合の部 優勝 十三チーム。準優勝 相内一チーム。第三位 相内四チーム。



開会式



山上選手の宣言



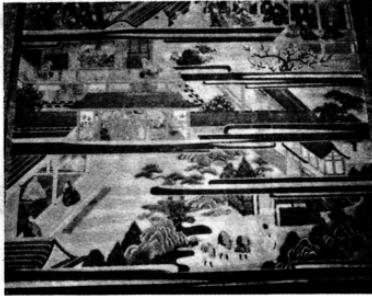
バドミントン



十三チームが総合優勝

熱戦海洋センターで

卓球



親鸞聖人一代絵巻の一部



▶41◀

津島平の歴史 (3)

典の南條院

各村の権徒名

今から約三千年前に本県民俗学の森山泰太郎氏の依頼で屋号調査のため、同寺の過去帳を見させてもらいましたが、ここに掲げる権徒は、文化十四(西紀一

八一七)年頃の各村の名前です。勿論性はわかりませんが、先祖をさぐってみるのも面白いと思いますので記載します。  
相内村 藤兵衛 五郎兵衛 清五郎 四郎左衛門・清九郎 重兵衛 幸助・又四郎 七兵衛 四兵衛 伝右衛門 喜八郎 利右衛門 清次郎 弥左衛門 六右衛門 惣三郎 三郎 善八郎 喜四郎 清右衛門 重三郎 半次郎 喜兵衛 又吉 万四郎 勘九郎 惣左衛門 長兵衛 惣四郎 長次郎 半左衛門 長左衛門 長四郎 長三郎 長吉 助作 彦左衛門 与右衛門 半之次 長三郎 和助 九郎 権藏 長右衛門 喜八郎 忠八 重介 善太郎 藤元村 七郎兵衛 長八郎 福委 重五郎 喜介 其九郎 吉五郎 吉郎次 市三郎

郎 久兵衛 金之丞 勝之丞 松五郎 長五郎 長兵衛 勘左衛門 孫兵衛 金四郎 磯松村 嘉右衛門 六右衛門 六兵衛 門 佐次兵衛 忠兵衛 権八 喜太郎 半次郎 次介 長十郎 善兵衛 善吉 市左衛門 五右衛門 喜八郎 佐次郎 徳助 弥兵衛 林兵衛 久四郎 吉三郎 久太郎 孫三郎 孫七 清五郎 次郎 左衛門 五郎七 三太郎 七五郎 かが屋三右衛門

当村では以上の名が見えています。他村名だけ載せますと、牛湖村十一名、車力村五名、今泉村一名、高根村六名、尾別村一名とつています。

災害に遭遇

弘文館史研究会編「津軽史事典」から拾ってみますと、「安永八(西紀一七七九)年一月二十一日十三町願龍寺、家十三軒焼失」と出ています。第五世紀且応の時代でした。再建には血のにじむようなご努力をしたものと推測されます。

昭和二十二年七月十五日の米機の爆撃によって本堂が破壊しましたことは村民周知のことですが、当時現住職が応召中であつたと思ひます。備遷後の本堂再建に尽力された正雄師の東奔西走の姿を見てゐる私は、第五世様の苦勞を容易に認ぶことが出来ます。

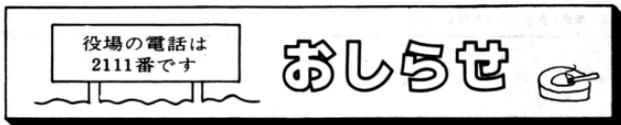
- 明暦三年十一月十七日、十三村火事、残らず焼失
- 万治三年六月廿七日、十三村火事
- 寛文元年十月十日、十三村大火、翌日まで八十餘軒焼失
- 延宝五年八月一日、十三町六十九軒焼失
- 元禄八年一月廿一日、十三町湊迎寺焼失
- 享保元年三月六日、十三町十八軒焼失
- 享保十年三月十一日、十三町三十五軒のうち三十五、六軒を残し他焼失
- 享保百三十五軒のうち三十三、五軒を残し他焼失

「明治」という元号は、慶応四年九月に採用され、その月の八日をもって慶応から明治に変わりました。

元号の語源

「明治」の元号は、中国の古書「周易」の「聖人南面して(位について)天下に馳き、明に響して治す」からとつた明に響して「尚書」の「明君の治」から出たとする二つの説があります。

明治から大正への改元は、明治四十五年七月二十日。大正の出典は「易経」の「大いに享(祭り)を正すをもつて天の道なり」からであります。これは天道に従い、政りごとを正すという意味であり、四十五年間も明治に親しんだ國民は、なかなか新しい元号になじめず、添田昭輝坊などを「明治四十五年と筆すべし」として、また大正と書くも悲しい今朝の秋」といううたをつくつたらしいです。大正天皇は病弱で、大正十五年十二月二十五日に崩御。「昭和」と改元されました。出典は「書経」の「百姓昭明万邦协和」で、これは君民一致、世界平和という意味であります。



### 歯のコンクール

野上将人ちゃんら3人が優賞

市浦村・市浦村教育委員会では、歯科衛生の関心と理解を深めさせ、自ら健康な歯をつくる態度を養うため、歯のコンクールを実施していますが、このほど昭和56年度の審査結果と優賞者3人、努力賞27人を発表しました。

こととして3回目を迎えた歯のコンクールは、村内の保育所に入所している幼児、小・中学校に在籍している児童生徒を対象に実施されているものです。

審査の順序としては、対象者の書類審査をしたあと、推せんされた者について、村の養教部会及び保健婦が選定し、選出された者を歯科医が検査して決定しています。う歯のない子3人が昭和56年度の優賞者に選ばれ、歯みがきをいっしょうけんめいした子、年内に治療を完了した子27人に努力賞を授与することになっています。

■優賞者、野上将人(相内保育所)、吉川幸一(臨元小学校、小山内直仁(市浦中学校)

努力賞 山田陽子、吉田社史、佐藤那穂子、三和順子(相内保育所) 亀田学、三上陽子、工藤淳也、工藤千木(十三保育所) 成田こづえ、成田太陽子、小野由紀子(臨元保育所)

佐藤恵久子、岡本香織、佐藤濃々(相内小学校) 石岡ゆみき、若山美香子、秋田紀子、秋田谷由紀(十三小学校) 桑野聡子、権引恵、三和英司、川上弘幸(臨元小学校) 山本春樹、奈良信和(太田小学校) 沢田佳子、佐々木和長、原子朋章(市浦中学校)

### —あなたの免許

更新はいつですか—

みなし講習に参加を

自動車の運転免許更新時には、必ず講習を受けなければなりません。その講習を受けるためには、いままです金木警察署まで出かけていたものです。

こういう不便を解消するため、交通安全協会市浦支部青年部(鎌田和廣部長)では、みなし講習を開くことになりました。

このみなし講習で受講した人は、受講日を基準に1年間有効で、1年以内に免許を更新する人は、警察署での受講は必要なくなります。

4月22日以降1年以内に免許更新する人はこの機会に受講してください。

○とき 4月22日  
午後6時～ 受付  
6時30分～ 講習

○ところ 基幹集落センター  
○持参するもの 免許証  
筆記用具、教則(ある人のみ)

○申込 4月8日まで役場企画室へ。  
なお、詳しいことは役場企画室までお問い合わせねがいます。

### 市浦村の人口と世帯

(57年3月1日現在)

人口	4,263人
男	2,093人
女	2,170人
世帯数	1,115



### 保険料の申告

忘れないでね

労働保険の昭和57年度概算保険料と昭和56年度確定保険料の申告納付をしていただく時期になりました。すでに事業主のみなさんには、申告のための用紙を送っておりますが、この申告書に保険料を添えて、法定期限にあたる5月15日までに最寄りの銀行か郵便局へお納めください。

### 春の火災予防運動

4月10日～16日

春の火災予防運動は4月10日から16日まで行われますが、津軽北部消防事務組合、消防本部では、火災予防運動の一環として、組合管内の小学生を対象に防火標語を募集しました。

底辺からの火災予防を呼びかけ、防火に対する関心の普及を図ることを目的に募集したもので、各小学校から1,047点応募され、次の方々がそれぞれ入賞しました。

優秀消防長賞  
十三小6 白川 正人  
「火災にはまず冷静に初期消火」  
優秀分署長賞  
十三小6 三橋 るみ  
「寝たきり火のふしまつ火事のもと」  
優秀学校長賞

十三小6 中井 健  
「使えなきや役に立たぬぞ消火器は」  
アイディア賞  
十三小6 相川 聡貴  
「保険かけ消火器おいても火事は出る」

### 技術を高め 冷害克服を

田中 義 春



ひらさぎ

このたび開かれた「水稲育苗講習会」には、数多くの人たちが出席しましたが、二年続きの冷害を克服しようとする意気込みを感じました。営業指導員の説明を聞いてみると、「私が毎年行ってきた苗づくりにも、手抜きや過失があったのだ」という勉強不足が反省させられます。村・農協・普及所の関係者が積極的に指導してくれていますが、これからの経験からどうしても「自己流」になりがち……。

ことしも異常気象の傾向が続くといわれていますが、「自己流」の稲作技術を高めるために、この種の講習会には積極的に参加したいと思っております。

# 教 社

シリーズ

## 生涯教育をわがやうに

⑫

派遣社教主事 片山 永繁

教育と、いわゆる教育の名がつけばなんとなく固い感じを受は、どうも抵抗があるといわれます。しかしそれは単に名称にこだわっているだけではないのだろうか。教育の本質は、むしろ「共育」ではなからうか。

子どものしつけにしても、幼児は幼児なりに、小学生は小学生なりにそれぞれの年代に合った適切な指導がなされなければなりません。すなわち子どもが成長するにつれ、それ以前、もしくは同時に親も対処できるような方を期しておく必要がある。それは、子どもとともに親も育つていかなければ、いざと別段「物知り」とまでいわ

### 母子の

胸はずませて、入学を心待ちにしている子供たち。お母さんとしては、期待と不安の入りまじったお気持ちでしょう。

ことに、初めて子供を学校に通わせるご家庭では、「勉強のできる素直なよい子」になってほしいというのが、率直な願いだと思います。

### 学校生活の規則や

### エチケットを身につけよう

後に悪影響を及ぼさないと、もう幼稚園時代の甘えや依りません。まず何よりも、子供を学校という集団生活になれさせることが先決です。その

後には、子供の心をリラックスさせ、健康状態に気を配り、みんなと仲よくつていくために必要で、学校生活の規則やエチケット

を身につけさせましょう。もう幼稚園時代の甘えや依り心は許されません。用便、洗顔、食事のしかたは「あらん、はい」「いいえ」「あ

れなくてもよいが、せめて一日一日と変化する現代にとり残されるよう視野を広め、必要な知識を身につけ、「みんなが共に育っていく」ためには、やはり生涯を通して学習を続けることが最も必要なことであると同時に、欠くことのできない重要なことだと思います。

一年間にわたる生涯活動の必要性について述べてまいりましたが、多少なりとも理解いただけたでしょうか。今月でこのシリーズを終了させていただきます。



### 窓の戸籍



- 三上 直輝(昭元) 初男
- 島津 一利(相内) 彰治
- 竹谷 知也(昭元) 克幸
- 中山 有人(磯松) 守
- 相川 昇 (十三)
- 遠谷 啓子 (十三)
- 三浦 春夫 (相内)
- 田中 美子 (磯松)
- 石山 嘉賢 (平賀)
- 三浦 文子 (相内)
- 山田 茂徳 (鹿兒島)
- 山田 栄子 (相内)
- 松谷 文雄 (中里)
- 山田美穂子 (磯松)
- 秋田谷長三郎(桂川) 48歳
- 奈良にま(相内) 68歳

### 二人には赤ちゃん

奈良 孝博さん三男(太田)  
邦央ちゃん(一歳)

お兄ちゃん、大丈夫だって!!  
ボク、ころばないで歩けるよ。

